

テーマ

未来に伝える浜田を探そう！

～あなたの知らない浜田に出会う～

事業実施地区（中学校区名）	浜田第二中学校区
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	浜田市立浜田公民館

テーマの背景

昨年度、地方創生事業として、幕末の浜田藩を四境戦争の時代背景や萩から美作まで現地へ赴き自焼退城の動きを追って学習してきた。その事業のふり返り会の中で、もっと足元の事を知ることや時代を限定的に学習するのではなく、様々な時代で幅広く浜田の歴史の面白さを知りたいという意見がでた。

そこで、今年度は二中校区エリア内での学習をし、歴史の事実だけではなく、「知らなかった」「おもしろい」浜田を発見していくことで、学んだことを地域の子どもたちに伝えていく人材として、主体的な取組へと繋がっていくことをねらった。

実際の取組

ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場を設定

事業名： 未来に伝える浜田を探そう！
～あなたの知らない浜田に出会う～ **探検ウォッチング&学習会**

<取組の概要> 目的：二中校区エリア内での学習で「知らなかった」「おもしろい」浜田を発見し、学びを活かして主体的に動こうとする意欲を育む。

《探検ウォッチング》対象：地域住民

4月17日(日) 城山公園
5月21日(土) 松原町殿町
6月18日(土) 新町～牛市町
10月15日(土) 田町～朝日町
11月12日(土) 蛭子～原井町
会場：現地 講師：下村明雄

《学習会》対象：地域住民

8月20日(土) 二中校区の歴史
12月17日(土) 二中校区の歴史
会場：浜田公民館 講師：下村明雄



<成果と課題>

○継続開催する事で、継続参加が増え、意欲的に学習していた。

○エリア内の学習にする事で、町内を歩いていると、事業を知らなかった地域の人も、関心を持って尋ねてきたり、参加者も自分が住む町の見過ごしていた面白さを発見したりできた。また、地域住民だからこそ知っている昔のことを参加者同士で共有できた。

△地域住民に対し、公民館での取組の周知がまだまだ出来ておらず、参加者が固定化された。公民館事業の広報と共に、事業参加者の有志で「町のおもしろだより」を発信し地域住民の参加につなげたい。

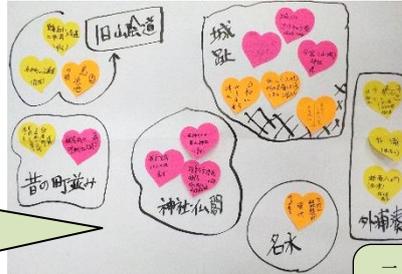
ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名： 未来に伝える浜田を探そう！ おもしろお宝づくり
～あなたの知らない浜田に出会う～

＜取組の概要＞目的：「伝えたくなかった想い」を次世代へ残すために、参加者同士意見を出し合い想いを共有することで、自分に出来る事を考え次の取り組みへ繋ぐ。

《おもしろお宝づくり》対象：地域住民
1月21日(土) 一の巻
2月18日(土) 二の巻
会場：浜田公民館

一の巻では、「シリーズ参加して一番おもしろかった！ぜひ他の人にも伝えたい！」と思った事をグループでラベルワークをし、最後に全部のグループのラベルを集め、ジャンル分けをして共有した。



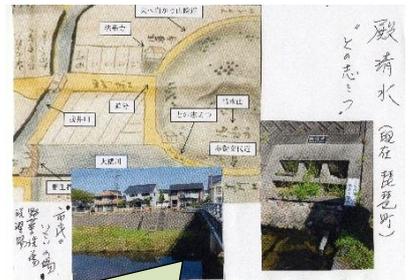
二の巻ではおもしろポイントを個人またはグループで知恵を出し合い「お宝」としてまとめた。

＜成果と課題＞

○一の巻では、ふり返りでラベルワークをした。自分の想いを話したり、他の人の意見を聞いたりする中で、参加者達はさらに学びを深めることが出来た。

○二の巻ではおもしろポイントを「お宝」としてまとめた。最初が一番心に残ったことを1つまとめる事になっていたが、まとめるうちに参加者同士で意見を交換し合ったり、さらに他のポイントでもまとめたりと、主体的な動きが見られ、自分が伝えたい「お宝」への思いが強まったようである。

△まとめたものを、地域の子どもの町歩きや、学校のふるさと教育に活かしたいという意見が出ていた。その意見を実現していくためには、住民への伝えるための学びの場や学校との連携をさらに図ることが必要である。



昔、殿清水は地域住民の憩いの場で野菜を洗ったり洗濯の場であったりしたことを知って欲しい想い

まとめ

テーマに迫るためのポイント

歩ける範囲にエリアを絞り散策をした事は、町の歴史をより身近な事として学べたり、講師も知らない地域住民ならではの秘話が飛び出したりした。講師による一方的な説明だけではなく、参加者も講師になり説明する場面があるなどのおもしろさがあった。

自分達で実際に歩き、見落とされている地域の宝を掘り起こしていくことで、歴史的事実だけではなく新しい価値を生み出すことができ、「知らなかった」「おもしろい」浜田を、他の誰かに教えたいくなるワクワク感が高まってきたようであった。そのことが、地域の子供達に伝えたいという気持ちにつながった。

今後の展望

○現段階では、大人の学びで留まっている。学びを活かし次世代に伝えるという視点で、学んできた地域の人達の主体的な動きが芽生えてくるよう仕掛けていくことや、「伝える」ことを楽しめるきっかけ作りをしていく。

○おもしろお宝づくりでの成果をいかし、今後も少しずつ増やしながら、校区内26町それぞれのお宝を町ごとにまとめ、学校とも連携してふるさと教育の推進に活かしたい。

○二の巻で行ったタブレットを利用した「GoogleEarth」や「ストリートビュー」などでの町散策も参加者から好反応だった。今後は紙媒体だけでなく、SNS等を利用して町のおもしろさの情報発信と町散策の事業も展開したい。

～公民館を核とした持続可能な地域づくり推進事業～
公民館ふるさと教育推進事業 取組事例